

「ゆきちから」の収穫法と加工適性

福島県農業試験場相馬支場
平成13～17年度農業試験場成績概要

- 1 部門名 普通畑作物－小麦－収穫・乾燥・調製
分類コード 02－02－24000000
- 2 担当者 佐々木園子・大和田正幸・島宗知行
- 3 要 旨

小麦品種「ゆきちから」の高品質生産のため、機械収穫での刈り取り適期を明らかにする目的で、収穫時期や乾燥法を変えて刈り取りを行い、収量、外観、品質、加工適性について検討した。

(1)「ゆきちから」の刈り取り適期は、収量、外観、品質から考えると、成熟期～成熟期後5日程度であり、立毛状況及び子実の状況から判断することが可能である。外観では、遅れ穂を除いた茎葉、穂が完全に黄化し、子実にやや緑色が残る頃から完全に緑色が消失する頃であると考えられる。

(2)コンバイン収穫、機械乾燥を前提とした場合、適期に刈り取っても、急激な乾燥によるものと考えられる青未熟粒あるいは粒表面の退色によって、外観品質が低下する場合があるが、機械乾燥による退色粒では、加工適性(糊化特性、 α -アミラーゼ活性)に問題はみられない。

(3)刈り遅れや降雨の影響による粒表面の退色や穂発芽粒の発生によって、外観品質の低下、加工適性の劣化がみられる。小麦の刈り取りは梅雨期間にあたるため、降雨後、穂の表面が乾燥し、収穫可能であれば直ちに収穫作業を行い、刈り遅れないようにして、加工適性の劣化を最小限に防ぐことが重要である。

- 4 その他の資料など